

政務活動費成果届出書

届出者 山田清一

○使途項目 (○をつける) 調査研究・**研修**・広報・資料作成・資料購入

○タイトル

公共施設の今後のあり方について

○目的 (計画書の目的欄をそのまま記載)

高度成長期に集中して建設された公共施設やインフラは、老朽化が進行し更新時期を一斉に迎えており、これからの人口減少や人口構成の変化などによる厳しい財政状況が予想される中、半田市においても公共施設の老朽化対策が大きな課題となっています。

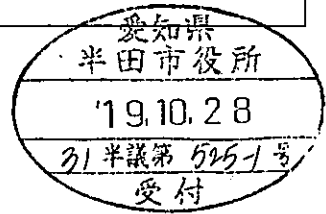
全ての公共施設を現状の規模のまま再整備するのではなく、今後の公共サービスの需要量の変化や市民ニーズに対応した整備を行うことが求められています。先進自治体の担当者を講師とした研修会を通して、公共施設の再配置に対する考え方、市民の合意形成の手法とあり方、財政と一体となったマネジメントの具現化など、将来を見据えた公共施設のあり方について学び、今後の半田市の公共施設更新への具体的な取り組みに活かしていく研修会とします。

○結果 (目的は達成できたか。予想と外れた場合にはその旨も記載。)

目的は達成できた。

- ・講師により秦野市と半田市のデータを比較した大変わかりやすいパワーポイント資料を作成していただき、公共施設更新問題は重要課題であり、今から実行していかないと大変な状況になることがよく理解できた。
- ・人口減少と高齢化の進展、建設時期の集中、増大する財政負担などにより、現在の公共施設の総量を維持し続けることは不可能である事を明確にいただいた。
- ・半田市民一人当たりの建物面積は、秦野市の1.63倍。市民一人当たりの歳入が1.04倍であり、秦野市以上に深刻な状況が明確になった。
- ・今後の公共施設に対する結論を先送りすることは、次世代に大きな負担を押し付けることになる。半田市の現段階での公共施設の更新問題に対する考え方を根本から変えなければいけないことが確認できた。
- ・半田市の状況から、基本的な方針の1、「原則、施設総量は現状を超えない範囲とする」などという方針は、全く本質を理解していないことが明確になった。
- ・半田市として、公共施設の更新問題に相当な危機感を持つ必要があることが明確になった。

確認欄	議長	管理委員長



○提言 (半田市に対し、何をどう活用するか。)

- ・半田市の公共施設更新問題は、専門的な知識が必要であり、専門のアドバイザーが必要である。
- ・半田市公共施設等総合管理計画の基本的な方針の1、「原則、施設総量は現状を超えない範囲とする」について、方針の変更が必要であり根本から検討し直す必要がある。
- ・公共施設更新問題は、自治体財政が抱える時限爆弾です！」との認識で、できるだけ早く対策に手をつけなければ、市民にも行政にも大きな痛みを与えることになる事を、半田市として認識を深めるために、まずは職員を対象とした講演会の実施が必要であり、その後に市民に広げていくこと。
- ・公共施設の更新問題を含め一元的なマネジメントを行う専任組織の設置は必須であり、市として専門知識を培っていかなければならない。
- ・半田市公共施設白書の更新をして、常に新しい情報を発信し続け、庁内や市民に対し、公共施設更新問題の深刻な状況を知っていただくための広報活動も継続的に推進していく必要がある。
- ・現在および将来コストの把握と効率的な投資計画が必要である。
- ・公共施設の利用料について、経費と利用料金との適正な関係についても今後検討が必要である。
- ・再配置計画または再配置方針を策定し実効性のあるものとする。
- ・半田市においても公民連携によるサービスの充実を模索・検討していく。

○その他 (その他特記事項があれば記載。目的とは別内容も可。)

- ・公共施設の今後のあり方については、本年の特別委員会のテーマであり、今後実施予定の県外視察を通じて更に知識を深め、半田市に対して課題解決につながる提言にしていきたい。

確認欄	議長	管理委員長

○行程・予算（資料購入の場合は、内容欄に書名と出版社を記入）

日にち	時間	内容		金額（円）	領収書
8/13	午後1時00分 ～ 午後4時	勉強会 講師謝金 (謝金 15,000 円、 交通費 20,094 円)		35,094 円	①
			合計	35,094 円	
		35,094 円を 10 人で按分	一人あたり 代表者 他9名	3,513 円 / 3,509 円 /	

○講師謝礼（交通費を含む）について

- ・講師謝金 15,000 円（一般講師相当）
- ・交通費 20,094 円

合計 35,094 円

○交通費の内訳は下記のとおり

- ・渋沢駅～小田原駅（小田急線急行） 247 円×2（往復）＝ 494 円
※IC カード利用時の運賃です
- ・小田原駅～名古屋駅（新幹線） 9,140 円×2（往復）＝ 18,280 円
- ・名古屋駅～知多半田駅 660 円×2（往復）＝ 1,320 円

20,094 円

令和元年10月28日

領収書等貼付用紙

議員名 山田清一

タイトル

公共施設の今後のあり方について

1枚中 1枚目

※報告書における領収書No.が分かるように貼り付けること。

領 収 書

金 35,094 円 也

但し、8月13日開催 半田市議会議員勉強会の
講師謝金として、上記金額領収いたしました。

令和元年8月13日

半田市議会議員
代表 山田清一 他 9名 様

志村高史  印

研修会の講師謝金の原本は山田清一議員に添付して、同席者9名で按分する。

35,094円 ÷ 10人 = 3,509円 (他9名)

3,513円 (山田議員)

政務活動費成果届出書

届出者 伊藤 正興

○使途項目 (○をつける) 調査研究・**研修**・広 報・資料作成・資料購入

○タイトル

公共施設の今後のあり方について

○目 的 (計画書の目的欄をそのまま記載)

高度成長期に集中して建設された公共施設やインフラは、老朽化が進行し更新時期を一斉に迎えており、これからの人口減少や人口構成の変化などによる厳しい財政状況が予想される中、半田市においても公共施設の老朽化対策が大きな課題となっています。

全ての公共施設を現状の規模のまま再整備するのではなく、今後の公共サービスの需要量の変化や市民ニーズに対応した整備を行うことが求められています。先進自治体の担当者を講師とした研修会を通して、公共施設の再配置に対する考え方、市民の合意形成の手法とあり方、財政と一体となったマネジメントの具現化など、将来を見据えた公共施設のあり方について学び、今後の半田市の公共施設更新への具体的な取り組みに活かしていく研修会とします。

○結 果 (目的は達成できたか。予想と外れた場合にはその旨も記載。)

今回、志村氏の話聞き、半田市においても公共施設の統廃合は、必ず必要だと感じました。私たちの子供や孫に負の遺産を引き継がないよう、しっかり考えなければいけないと思いました。秦野市の前向きで市民目線の考え方との違いに、半田市も大改革が必要だと認識しました。今回は、大変有意義な勉強会でした。

○提 言 (半田市に対し、何をどう活用するか。)

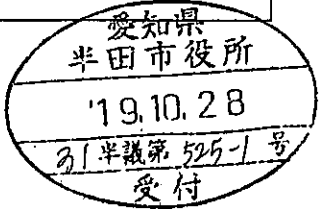
公共施設のマネジメントを行う専門の部署を新設し、常に適切な公共施設運営を進める。

また、目標と計画を定め、公共施設の統廃合についても検討する。

令和3年度から始まる、学校校舎の建て替えから適用できるように進める。

○その他 (その他特記事項があれば記載。目的とは別内容も可。)

確認欄	議長	管理委員長



申し合わせ様式第1号

○行程・予算(資料購入の場合は、内容欄に書名と出版社を記入)

日にち	時間	内容	金額(円)	領収書
8/13	午後1時00分 ～ 午後4時	勉強会 講師謝金 (謝金 15,000 円、 交通費 20,094 円)	35,094 円	①
			合計 35,094 円	
		35,094 円を 10 人で按分	一人あたり 代表者 他9名 3,513 円 3,509 円	

○講師謝礼(交通費を含む)について

- ・講師謝金 15,000 円(一般講師相当)
- ・交通費 20,094 円

合計 35,094 円

○交通費の内訳は下記のとおり

- ・渋沢駅～小田原駅(小田急線急行) $247 \text{円} \times 2 \text{(往復)} = 494 \text{円}$
※ICカード利用時の運賃です
- ・小田原駅～名古屋駅(新幹線) $9,140 \text{円} \times 2 \text{(往復)} = 18,280 \text{円}$
- ・名古屋駅～知多半田駅 $660 \text{円} \times 2 \text{(往復)} = 1,320 \text{円}$

20,094 円

令和元年10月28日

領収書等貼付用紙

議員名 伊藤正興

タイトル

公共施設の今後のあり方について

1枚中 1枚目

※報告書における領収書No.が分かるように貼り付けること。

領 収 書

金 35,094 円 也

但し、8月13日開催 半田市議会議員勉強会の
講師謝金として、上記金額領収いたしました。

令和元年8月13日

半田市議会議員

代表 山田清一 他 9名 様

志村高史



研修会の講師謝金の原本は山田清一議員に添付して、同席者9名で按分する。

35,094円 ÷ 10人 = 3,509円 (他9名)

3,513円 (山田議員)

政務活動費成果届出書

届出者 新美保博

○使途項目 (○をつける) 調査研究・**研修**・広報・資料作成・資料購入

○タイトル

公共施設の今後のあり方について

○目的 (計画書の目的欄をそのまま記載)

高度成長期に集中して建設された公共施設やインフラは、老朽化が進行し更新時期を一斉に迎えており、これからの人口減少や人口構成の変化などによる厳しい財政状況が予想される中、半田市においても公共施設の老朽化対策が大きな課題となっています。

全ての公共施設を現状の規模のまま再整備するのではなく、今後の公共サービスの需要量の変化や市民ニーズに対応した整備を行うことが求められています。先進自治体の担当者を講師とした研修会を通して、公共施設の再配置に対する考え方、市民の合意形成の手法とあり方、財政と一体となったマネジメントの具現化など、将来を見据えた公共施設のあり方について学び、今後の半田市の公共施設更新への具体的な取り組みに活かしていく研修会とします。

○結果 (目的は達成できたか。予想と外れた場合にはその旨も記載。)

公共施設更新問題への挑戦(秦野市の取り組みと半田市の現状から)というテーマにて講演を拝聴する。

「半田市公共施設白書」はホームページにファイルが存在せず。「公共施設等総合管理計画」にも掲載がないとのこと。何故か?せつかく比較してもらえたのにもったいない。問題意識の希薄さは如何ともし難い。白書を作ることが目的になっているのでは。半田市は平和な街である。

○提言 (半田市に対し、何をどう活用するか。)

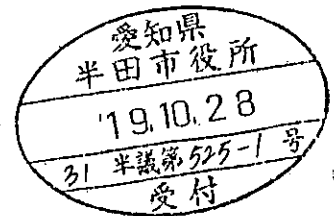
減築をして長寿命化を図ることは大切な事であるが、何をもって減築するのかは明確にすべきである。

公共施設の複合化と併せ、減築をすることによって、かからなくなる予算を、他の運営費に補填していくという発想は有意義である。

トップの意識改革、市民への説明責任、市民・行政の危機感の共有

○その他 (その他特記事項があれば記載。目的とは別内容も可。)

確認欄	議長	管理委員長



申し合わせ様式第1号

○行程・予算（資料購入の場合は、内容欄に書名と出版社を記入）

日にち	時間	内容		金額（円）	領収書
8/13	午後1時00分 ～ 午後4時	勉強会 講師謝金 (謝金 15,000 円、 交通費 20,094 円)		35,094 円	①
			合計	35,094 円	
		35,094 円を 10 人で按分	一人あたり 代表者 他9名	3,513 円 3,509 円	

○講師謝礼（交通費を含む）について

- ・講師謝金 15,000 円（一般講師相当）
- ・交通費 20,094 円

合計 35,094 円

○交通費の内訳は下記のとおり

- ・ 渋沢駅～小田原駅（小田急線急行） 247 円×2（往復）＝ 494 円
※IC カード利用時の運賃です
- ・ 小田原駅～名古屋駅（新幹線） 9,140 円×2（往復）＝ 18,280 円
- ・ 名古屋駅～知多半田駅 660 円×2（往復）＝ 1,320 円

20,094 円

令和元年10月28日

領収書等貼付用紙

議員名 新美保博

タイトル

公共施設の今後のあり方について

1枚中 1枚目

※報告書における領収書No.が分かるように貼り付けること。

領 収 書

金 35,094 円 也

但し、8月13日開催 半田市議会議員勉強会の
講師謝金として、上記金額領収いたしました。

令和元年8月13日

半田市議会議員

代表 山田清一 他 9名 様

志村高史



研修会の講師謝金の原本は山田清一議員に添付して、同席者9名で按分する。

35,094円÷10人≒3,509円 (他9名)

3,513円 (山田議員)

政務活動費成果届出書

届出者 小栗 佳仁

○使途項目 (○をつける) 調査研究・**研修**・広報・資料作成・資料購入

○タイトル

公共施設の今後のあり方について

○目的 (計画書の目的欄をそのまま記載)

高度成長期に集中して建設された公共施設やインフラは、老朽化が進行し更新時期を一斉に迎えており、これからの人口減少や人口構成の変化などによる厳しい財政状況が予想される中、半田市においても公共施設の老朽化対策が大きな課題となっています。

全ての公共施設を現状の規模のまま再整備するのではなく、今後の公共サービスの需要量の変化や市民ニーズに対応した整備を行うことが求められています。先進自治体の担当者を講師とした研修会を通して、公共施設の再配置に対する考え方、市民の合意形成の手法とあり方、財政と一体となったマネジメントの具現化など、将来を見据えた公共施設のあり方について学び、今後の半田市の公共施設更新への具体的な取り組みに活かしていく研修会とします。

○結果 (目的は達成できたか。予想と外れた場合にはその旨も記載。)

【達成できた】

- ・高度成長の中で集中して整備された公共施設の老朽化により更新問題が迫っています。
- ・人口推計から、必要性の高い公共施設を良好な状態で保てなくなる恐れがあります。

高齢化や空洞化などにより存続が困難になる地域もあることなどを考慮し、一般公共施設の更新時の計画に入れる必要について理解できた。

- ・継続、統合、複合化、縮小、一部縮小など地域性を考慮した計画立案と住民への説明が必要であると確信できた。

○提言 (半田市に対し、何をどう活用するか。)

- ・各部を横断できるようにきちんとした部署設立またはプロジェクトを立ち上げるなど計画案を早急に立案すること。

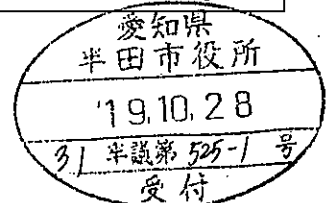
- ・人口推計から、必要性の高い公共施設を良好な状態で維持できるように、公共施設を継続、統合、複合化、縮小、一部縮小など地域性を考慮した計画立案すること。

- ・財政状況や人口動態などから統廃合や複合化などの住民説明を丁寧に行うことで、住民理解が進み納得して頂けるようにすること。

- ・現在の公共施設長寿命化計画は将来負担を大きくしないよう見直して頂きたい。

- ・小学校区に複数の公民館があり、稼働率や稼働時間帯にむらがあり非効率になっています。早

確認欄	議長	管理委員長



申し合わせ様式第2号

急な見直しを行い統廃合や複合化による対応を早急にお願いします。

○その他 (その他特記事項があれば記載。目的とは別内容も可。)

確認欄	議長	管理委員長

申し合わせ様式第1号

○行程・予算（資料購入の場合は、内容欄に書名と出版社を記入）

日にち	時間	内容		金額（円）	領収書
8/13	午後1時00分 ～ 午後4時	勉強会 講師謝金 (謝金 15,000 円、 交通費 20,094 円)		35,094 円	①
			合計	35,094 円	
		35,094 円を 10 人で按分	一人あたり 代表者 他9名	3,513 円 3,509 円	

○講師謝礼（交通費を含む）について

- ・講師謝金 15,000 円（一般講師相当）
- ・交通費 20,094 円

合計 35,094 円

○交通費の内訳は下記のとおり

- ・渋谷駅～小田原駅（小田急線急行） 247 円×2（往復）＝ 494 円
※ICカード利用時の運賃です
- ・小田原駅～名古屋駅（新幹線） 9,140 円×2（往復）＝ 18,280 円
- ・名古屋駅～知多半田駅 660 円×2（往復）＝ 1,320 円

20,094 円

令和元年10月28日

領収書等貼付用紙

議員名 小栗佳仁

タイトル

公共施設の今後のあり方について

1枚中

1枚目

※報告書における領収書No.が分かるように貼り付けること。

領 収 書

金 35,094 円 也

但し、8月13日開催 半田市議会議員勉強会の
講師謝金として、上記金額領収いたしました。

令和元年8月13日

半田市議会議員

代表 山田清一 他 9名 様

志村高史



研修会の講師謝金の原本は山田清一議員に添付して、同席者9名で按分する。

35,094円÷10人≒3,509円(他9名)

3,513円(山田議員)

政務活動費成果届出書

届出者 水野尚美

○使途項目 (○をつける) 調査研究・**研修**・広報・資料作成・資料購入

○タイトル

公共施設の今後のあり方について

○目的 (計画書の目的欄をそのまま記載)

高度成長期に集中して建設された公共施設やインフラは、老朽化が進行し更新時期を一斉に迎えており、これからの人口減少や人口構成の変化などによる厳しい財政状況が予想される中、半田市においても公共施設の老朽化対策が大きな課題となっています。

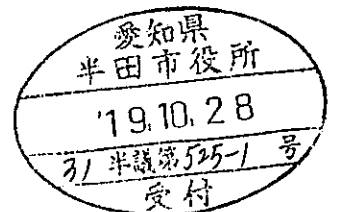
全ての公共施設を現状の規模のまま再整備するのではなく、今後の公共サービスの需要量の変化や市民ニーズに対応した整備を行うことが求められています。先進自治体の担当者を講師とした研修会を通して、公共施設の再配置に対する考え方、市民の合意形成の手法とあり方、財政と一体となったマネジメントの具現化など、将来を見据えた公共施設のあり方について学び、今後の半田市の公共施設更新への具体的な取り組みに活かしていく研修会とします。

○結果 (目的は達成できたか。予想と外れた場合にはその旨も記載。)

- ・先進自治体として秦野市が取り組んで来た事例などを通して半田市の現状と将来あるべき方向性などを具体的に考えることが出来た。
- ・公共施設の更新問題は、自治体が抱える時限爆弾ではあるが、市民行政双方が痛手を負わずに済む為に、早期対策に取り組む重要性を感じた。
- ・公共施設の更新問題を市民に周知、理解してもらうこと、そして危機感を共有してくれる市民を増やすことが大切だと感じた。
- ・「やる」か「やらないか」の違いで半田市の将来が決まる。その違いは責任も含め大きい。

○提言 (半田市に対し、何をどう活用するか。)

確認欄	議長	管理委員長



- ・ 公共施設の更新問題を市民に伝え、市民と共に半田市の将来像を考える取り組みが必要。
- ・ 再配置に関する方針を明確にし、全ての公共施設に対する計画を立てる。(秦野市同様、小学校区を中心にしたコミュニティ拠点ができると良い。)
- ・ 施設の空き時間や敷地の一部を活用した付帯事業(民間収益施設)は可能ではないか。
- ・ 企画課に公共施設マネジメント担当が必要。
- ・ 半田市のホームページに公共施設白書をアップする。

○その他 (その他特記事項があれば記載。目的とは別内容も可。)

--

確認欄	議長	管理委員長

申し合わせ様式第1号

○行程・予算（資料購入の場合は、内容欄に書名と出版社を記入）

日にち	時間	内容	金額（円）	領収書
8/13	午後1時00分 ～ 午後4時	勉強会 講師謝金 (謝金 15,000 円、 交通費 20,094 円)	35,094 円	①
			合計	
		35,094 円を 10 人で按分	一人あたり 代表者 他9名	
			3,513 円 / 3,509 円 /	

○講師謝礼（交通費を含む）について

- ・ 講師謝金 15,000 円（一般講師相当）
 - ・ 交通費 20,094 円
-
- 合計 35,094 円

○交通費の内訳は下記のとおり

- ・ 渋沢駅～小田原駅（小田急線急行） 247 円×2（往復）＝ 494 円
※IC カード利用時の運賃です
 - ・ 小田原駅～名古屋駅（新幹線） 9,140 円×2（往復）＝ 18,280 円
 - ・ 名古屋駅～知多半田駅 660 円×2（往復）＝ 1,320 円
-
- 20,094 円

令和元年10月28日

領収書等貼付用紙

議員名 水野尚美

タイトル

公共施設の今後のあり方について

1枚中

1枚目

※報告書における領収書No.が分かるように貼り付けること。

領 収 書

金 35,094 円 也

但し、8月13日開催 半田市議会議員勉強会の
講師謝金として、上記金額領収いたしました。

令和元年8月13日

半田市議会議員

代表 山田清一 他 9名 様

志村高史



研修会の講師謝金の原本は山田清一議員に添付して、同席者9名で按分する。

35,094円÷10人≒3,509円 (他9名)

3,513円 (山田議員)

政務活動費成果届出書

届出者 坂井 美穂

○使途項目 (○をつける) 調査研究・**研修**・広報・資料作成・資料購入

○タイトル

公共施設の今後のあり方について

○目的 (計画書の目的欄をそのまま記載)

高度成長期に集中して建設された公共施設やインフラは、老朽化が進行し更新時期を一斉に迎えており、これからの人口減少や人口構成の変化などによる厳しい財政状況が予想される中、半田市においても公共施設の老朽化対策が大きな課題となっています。

全ての公共施設を現状の規模のまま再整備するのではなく、今後の公共サービスの需要量の変化や市民ニーズに対応した整備を行うことが求められています。先進自治体の担当者を講師とした研修会を通して、公共施設の再配置に対する考え方、市民の合意形成の手法とあり方、財政と一体となったマネジメントの具現化など、将来を見据えた公共施設のあり方について学び、今後の半田市の公共施設更新への具体的な取り組みに活かしていく研修会とします。

○結果 (目的は達成できたか。予想と外れた場合にはその旨も記載。)

目的は達成できた。

秦野市では、現状のままハコモノを維持し続けることは将来の人口減少から見て不可能であると断言した上で、将来の人口と更新し続ける場合の財政状況などを分かり易いデータで示している。市民に対しては、裏付けのあるデータを示しながら、丁寧に説明をしており、市民の納得を得ていることから、秦野市の市民の合意形成の手法とあり方は、統廃合をする上で効果的である。

○提言 (半田市に対し、何をどう活用するか。)

問題を正しく認識し、市民の合意を得て、統廃合を進めている秦野市のノウハウは、どこの自治体においても参考になるものであり、半田市においても、公共施設の統廃合においては、まずは問題を正しく認識し、公共施設白書など分かり易いデータを提示しながら、市民と庁内に説明して両者の合意を得るところから始める必要がある。

公共施設マネジメント課を発足し、計画立案から全庁的なプロジェクトチームで推進していく必要がある。

○その他 (その他特記事項があれば記載。目的とは別内容も可。)

確認欄	議長	管理委員長



申し合わせ様式第1号

○行程・予算（資料購入の場合は、内容欄に書名と出版社を記入）

日にち	時間	内容		金額（円）	領収書
8/13	午後1時00分 ～ 午後4時	勉強会 講師謝金 (謝金 15,000 円、 交通費 20,094 円)		35,094 円	①
			合計	35,094 円	
		35,094 円を 10 人で按分	一人あたり 代表者 他9名	3,513 円 3,509 円	

○講師謝礼（交通費を含む）について

- ・講師謝金 15,000 円（一般講師相当）
- ・交通費 20,094 円

合計 35,094 円

○交通費の内訳は下記のとおり

- ・渋沢駅～小田原駅（小田急線急行） 247 円×2（往復）＝ 494 円
※ICカード利用時の運賃です
- ・小田原駅～名古屋駅（新幹線） 9,140 円×2（往復）＝ 18,280 円
- ・名古屋駅～知多半田駅 660 円×2（往復）＝ 1,320 円

20,094 円

令和元年10月28日

領収書等貼付用紙

議員名 坂井美穂

タイトル

公共施設の今後のあり方について

1枚中 1枚目

※報告書における領収書No.が分かるように貼り付けること。


領 収 書

金 35,094 円 也

但し、8月13日開催 半田市議会議員勉強会の
講師謝金として、上記金額領収いたしました。

令和元年8月13日

半田市議会議員
代表 山田清一 他 9名 様

志村高史 

研修会の講師謝金の原本は山田清一議員に添付して、同席者9名で按分する。

35,094円 ÷ 10人 = 3,509円 (他9名)

3,513円 (山田議員)

政務活動費成果届出書

届出者 中川健一

○使途項目 (○をつける) 調査研究・**研修**・広報・資料作成・資料購入

○タイトル

公共施設の今後のあり方について

○目的 (計画書の目的欄をそのまま記載)

高度成長期に集中して建設された公共施設やインフラは、老朽化が進行し更新時期を一斉に迎えており、これからの人口減少や人口構成の変化などによる厳しい財政状況が予想される中、半田市においても公共施設の老朽化対策が大きな課題となっています。

全ての公共施設を現状の規模のまま再整備するのではなく、今後の公共サービスの需要量の変化や市民ニーズに対応した整備を行うことが求められています。先進自治体の担当者を講師とした研修会を通して、公共施設の再配置に対する考え方、市民の合意形成の手法とあり方、財政と一体となったマネジメントの具現化など、将来を見据えた公共施設のあり方について学び、今後の半田市の公共施設更新への具体的な取り組みに活かしていく研修会とします。

○結果 (目的は達成できたか。予想と外れた場合にはその旨も記載。)

目的は達成できた。

○提言 (半田市に対し、何をどう活用するか。)

市長は公共施設の床面積を何%削減するのかについて、数値目標を早急に市議会へ提案する必要がある。

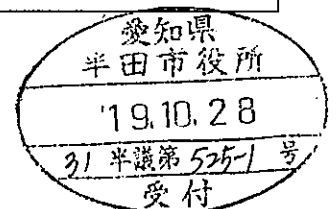
公共施設総合管理計画を平成29年3月に策定し、2年以上過ぎても、具体的な公共施設削減計画の提案ができないのは市長の職務怠慢と言わざるを得ない。

なお、現在のように、学校施設は教育部、観光施設は市民経済部、というように部毎に今後の公共施設のあり方を考えていてはいつまでたってもまともな公共施設の削減計画はできない。市長と企画部長は全市的な見地にたって、公共施設の床面積削減の長期計画とそれに付随する長期財政計画を市議会へ早急に提案しなければ、職務怠慢と今後とも言われ続けることになる。

○その他 (その他特記事項があれば記載。目的とは別内容も可。)

講師の先生のお話を伺って、半田市長が公共施設の削減計画を作成せずにさぼっていることがよく分かった。あり得ない状況である。

確認欄	議長	管理委員長



申し合わせ様式第1号

○行程・予算（資料購入の場合は、内容欄に書名と出版社を記入）

日にち	時間	内容		金額（円）	領収書
8/13	午後1時00分 ～ 午後4時	勉強会 講師謝金 (謝金 15,000 円、 交通費 20,094 円)		35,094 円	①
			合計	35,094 円	
		35,094 円を 10 人で按分	一人あたり 代表者 他9名	3,513 円 3,509 円	

○講師謝礼（交通費を含む）について

- ・講師謝金 15,000 円（一般講師相当）
 - ・交通費 20,094 円
-
- 合計 35,094 円

○交通費の内訳は下記のとおり

- ・渋谷駅～小田原駅（小田急線急行） 247 円×2（往復）＝ 494 円
※ICカード利用時の運賃です
 - ・小田原駅～名古屋駅（新幹線） 9,140 円×2（往復）＝ 18,280 円
 - ・名古屋駅～知多半田駅 660 円×2（往復）＝ 1,320 円
-
- 20,094 円

令和元年10月28日

領収書等貼付用紙

議員名 中川健一

タイトル

公共施設の今後のあり方について

1枚中 1枚目

※報告書における領収書 No.が分かるように貼り付けること。

領 収 書

金 35,094 円 也

但し、8月13日開催 半田市議会議員勉強会の
講師謝金として、上記金額領収いたしました。

令和元年8月13日

半田市議会議員

代表 山田清一 他 9名 様

志村高史



研修会の講師謝金の原本は山田清一議員に添付して、同席者9名で按分する。

35,094円 ÷ 10人 = 3,509円 (他9名)

3,513円 (山田議員)

政務活動費成果届出書

届出者 竹内 功治

○使途項目 (○をつける) 調査研究・ 研修・広 報・資料作成・資料購入

○タイトル

公共施設の今後のあり方について

○目 的 (計画書の目的欄をそのまま記載)

高度成長期に集中して建設された公共施設やインフラは、老朽化が進行し更新時期を一斉に迎えており、これからの人口減少や人口構成の変化などによる厳しい財政状況が予想される中、半田市においても公共施設の老朽化対策が大きな課題となっています。

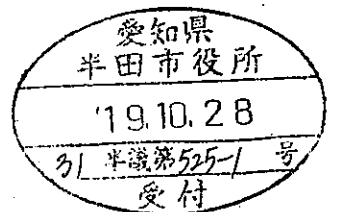
全ての公共施設を現状の規模のまま再整備するのではなく、今後の公共サービスの需要量の変化や市民ニーズに対応した整備を行うことが求められています。先進自治体の担当者を講師とした研修会を通して、公共施設の再配置に対する考え方、市民の合意形成の手法とあり方、財政と一体となったマネジメントの具現化など、将来を見据えた公共施設のあり方について学び、今後の半田市の公共施設更新への具体的な取り組みに活かしていく研修会とします。

○結 果 (目的は達成できたか。予想と外れた場合にはその旨も記載。)

- ・約40年前と比べて公共施設は約1.4倍増えたが、生産年齢人口はほぼ同じで高齢者が増え、人口は減少している。また生産年齢の年齢も上がっている。(15歳→22歳)
- ・ハコモノは統廃合できても、道路橋梁費や市営住宅の減少は難しい。
- ・公共施設の利用状況は稼働率だけで判断せず、また工夫次第で不足感を緩和できる。
- ・義務教育、子育て支援、行政事務の施設整備が最優先である。
- ・複数の施設を合わせるのではなく、効率的な利用を考えて複合化した施設整備を行う。
- ・若い職員や企業、自治体等のアイデアや協力、支援を活かした公共施設を考えている。
- ・総合管理計画の作成の中で個別の施設計画を作り、実行に移すことが大切である。現在の公共施設の総量を維持することは不可能と理解が出来るなど、目的は達成できた。

○提 言 (半田市に対し、何をどう活用するか。)

	議長	管理委員長
確認欄		



- ・全ての公共施設の更新は不可能の為、個別の施設計画を含む管理計画を作成すること。
- ・義務教育や子育て支援の施設整備を最優先すること。
- ・単純に複数の施設を統合するのではなく、効率的な利用まで考えた整備を行うこと。
- ・若い職員や企業、自治体等のアイデアや協力、支援を活かした公共施設を考えること。
- ・市民に全ての公共施設を更新することは不可能であると、理解してもらうこと。

○その他 (その他特記事項があれば記載。目的とは別内容も可。)

- ・半田市は、公立保育園・幼稚園の民営化による施設整備を、確実に進めるべきと感じた。

確認欄	議長	管理委員長

申し合わせ様式第1号

○行程・予算(資料購入の場合は、内容欄に書名と出版社を記入)

日にち	時間	内容	金額(円)	領収書
8/13	午後1時00分 ～ 午後4時	勉強会 講師謝金 (謝金 15,000 円、 交通費 20,094 円)	35,094 円	①
			合計 35,094 円	
		35,094 円を 10 人で按分	一人あたり 代表者 他9名 3,513 円 3,509 円	

○講師謝礼(交通費を含む)について

- ・講師謝金 15,000 円(一般講師相当)
- ・交通費 20,094 円

合計 35,094 円

○交通費の内訳は下記のとおり

- ・渋沢駅～小田原駅(小田急線急行) $247 \text{円} \times 2 \text{(往復)} = 494 \text{円}$
※ICカード利用時の運賃です
- ・小田原駅～名古屋駅(新幹線) $9,140 \text{円} \times 2 \text{(往復)} = 18,280 \text{円}$
- ・名古屋駅～知多半田駅 $660 \text{円} \times 2 \text{(往復)} = 1,320 \text{円}$

20,094 円

領収書等貼付用紙

議員名 竹内功治

タイトル

公共施設の今後のあり方について

1枚中 1枚目

※報告書における領収書No.が分かるように貼り付けること。

領 収 書

金 35,094 円 也

但し、8月13日開催 半田市議会議員勉強会の
講師謝金として、上記金額領収いたしました。

令和元年8月13日

半田市議会議員

代表 山田清一 他 9名 様

志村高史



研修会の講師謝金の原本は山田清一議員に添付して、同席者9名で按分する。

35,094円 ÷ 10人 = 3,509円 (他9名)

3,513円 (山田議員)

政務活動費成果届出書

届出者 渡邊 昭司

○使途項目 (○をつける) 調査研究・研修・広報・資料作成・資料購入

○タイトル

公共施設の今後のあり方について

○目的 (計画書の目的欄をそのまま記載)

高度成長期に集中して建設された公共施設やインフラは、老朽化が進行し更新時期を一斉に迎えており、これからの人口減少や人口構成の変化などによる厳しい財政状況が予想される中、半田市においても公共施設の老朽化対策が大きな課題となっています。

全ての公共施設を現状の規模のまま再整備するのではなく、今後の公共サービスの需要量の変化や市民ニーズに対応した整備を行うことが求められています。先進自治体の担当者を講師とした研修会を通して、公共施設の再配置に対する考え方、市民の合意形成の手法とあり方、財政と一体となったマネジメントの具現化など、将来を見据えた公共施設のあり方について学び、今後の半田市の公共施設更新への具体的な取り組みに活かしていく研修会とします。

○結果 (目的は達成できたか。予想と外れた場合にはその旨も記載。)

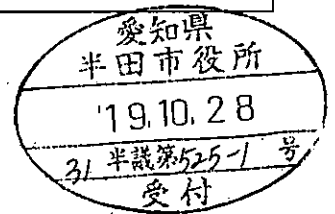
- ・半田市と秦野市の比較(歳入額、歳入構成、性質別歳出、性質別歳出構成、公共施設面積等々)で公共施設更新問題を分かり易く説明いただきました
- ・秦野市は公共施設の更新問題(公共施設の総量を維持できない状況)を市民へ丁寧に説明している(人口減少、高齢化、扶助費・投資的経費の増加等)
- ・秦野市は自治会施設の改修に補助金制度がある(改修費の三分の二補助)

○提言 (半田市に対し、何をどう活用するか。)

- ・公共施設の基本方針、統合・廃止の実施方針は示されているが、もっと具体的な管理計画を作る必要がある(市営住宅の削減、保育園の民営化、複合施設、統廃合の具現化)
- ・中学校か小学校の地域で会議体を作り、地域と行政で公共施設の管理計画を策定して、市民の理解を求めていく
- ・自治区が管理する施設に対しての補助金制度の創設

○その他 (その他特記事項があれば記載。目的とは別内容も可。)

	議長	管理委員長
確認欄		



申し合わせ様式第1号

○行程・予算（資料購入の場合は、内容欄に書名と出版社を記入）

日にち	時間	内容		金額（円）	領収書
8/13	午後1時00分 ～ 午後4時	勉強会 講師謝金 (謝金 15,000 円、 交通費 20,094 円)		35,094 円	①
			合計	35,094 円	
		35,094 円を 10 人で按分	一人あたり 代表者 他9名	3,513 円 / 3,509 円 /	

○講師謝礼（交通費を含む）について

- ・講師謝金 15,000 円（一般講師相当）
 - ・交通費 20,094 円
-
- 合計 35,094 円

○交通費の内訳は下記のとおり

- ・渋谷駅～小田原駅（小田急線急行） 2,47 円×2（往復）＝ 494 円
※IC カード利用時の運賃です
 - ・小田原駅～名古屋駅（新幹線） 9,140 円×2（往復）＝ 18,280 円
 - ・名古屋駅～知多半田駅 660 円×2（往復）＝ 1,320 円
-
- 20,094 円

令和元年10月28日

領収書等貼付用紙

議員名 渡辺昭司

タイトル

公共施設の今後のあり方について

1枚中 1枚目

※報告書における領収書No.が分かるように貼り付けること。

領 収 書

金 35,094 円 也

但し、8月13日開催 半田市議会議員勉強会の
講師謝金として、上記金額領収いたしました。

令和元年8月13日

半田市議会議員

代表 山田清一 他 9名 様

志村高史



研修会の講師謝金の原本は山田清一議員に添付して、同席者9名で按分する。

35,094円÷10人≒3,509円 (他9名)

3,513円 (山田議員)

政務活動費成果届出書

届出者 榊原伸行

○使途項目 (○をつける) 調査研究・研修・広報・資料作成・資料購入

○タイトル

公共施設の今後のあり方について

○目的 (計画書の目的欄をそのまま記載)

高度成長期に集中して建設された公共施設やインフラは、老朽化が進行し更新時期を一斉に迎えており、これからの人口減少や人口構成の変化などによる厳しい財政状況が予想される中、半田市においても公共施設の老朽化対策が大きな課題となっています。

全ての公共施設を現状の規模のまま再整備するのではなく、今後の公共サービスの需要の変化や市民ニーズに対応した整備を行うことが求められています。先進自治体の担当者を講師とした研修会を通して、公共施設の再配置に対する考え方、市民の合意形成の手法とあり方、財政と一体となったマネジメントの具現化など、将来を見据えた公共施設のあり方について学び、今後の半田市の公共施設更新への具体的な取り組みに活かしていく研修会とします。

○結果 (目的は達成できたか。予想と外れた場合にはその旨も記載。)

○達成できた。

- ・公共施設更新問題は、自治体財政が抱かえる時限爆弾であり半田市の現状と課題や更新計画の方向性について市民説明会と共有が必要である。
- ・小学校区は大切なコミュニティの単位である。
- ・義務教育施設と地域施設の複合化など4つのシンボル事業
- ・公共施設のポテンシャルを引き出すチャレンジ

○提言 (半田市に対し、何をどう活用するか。)

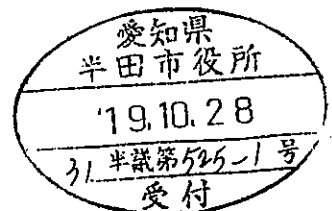
○現在の公共施設の総量を維持し続けることは不可能であることから専任組織である公共施設再配置計画担当を設置し小学校区単位を中心とした公共施設の再配置に着手すべきである。

○半田市の現状、課題、更新計画の方向性などの市民説明会をし市民との共有が必要である。

○その他 (その他事項があれば記載。目的とは別内容も可。)

○半田市の公共施設等総合管理計画では将来の財政健全化判断比率から見て削減の必要なしの根拠とわかりやすい説明が必要。

	議長	管理委員長
確認欄		



申し合わせ様式第1号

○行程・予算（資料購入の場合は、内容欄に書名と出版社を記入）

日にち	時間	内容		金額（円）	領収書
8/13	午後1時00分 ～ 午後4時	勉強会 講師謝金 (謝金 15,000 円、 交通費 20,094 円)		35,094 円	①
			合計	35,094 円	
		35,094 円を 10 人で按分	一人あたり 代表者 他9名	3,513 円 3,509 円	

○講師謝礼（交通費を含む）について

- ・講師謝金 15,000 円（一般講師相当）
- ・交通費 20,094 円

合計 35,094 円

○交通費の内訳は下記のとおり

- ・渋沢駅～小田原駅（小田急線急行） 247 円×2（往復）＝ 494 円
※ICカード利用時の運賃です
- ・小田原駅～名古屋駅（新幹線） 9,140 円×2（往復）＝ 18,280 円
- ・名古屋駅～知多半田駅 660 円×2（往復）＝ 1,320 円

20,094 円

令和元年10月28日

領収書等貼付用紙

議員名 榑原伸行

タイトル

公共施設の今後のあり方について

1枚中 1枚目

※報告書における領収書No.が分かるように貼り付けること。

領 収 書

金 35,094 円 也

但し、8月13日開催 半田市議会議員勉強会の
講師謝金として、上記金額領収いたしました。

令和元年8月13日

半田市議会議員

代表 山田清一 他 9名 様

志村高史



研修会の講師謝金の原本は山田清一議員に添付して、同席者9名で按分する。

35,094円÷10人≒3,509円(他9名)

3,513円(山田議員)